



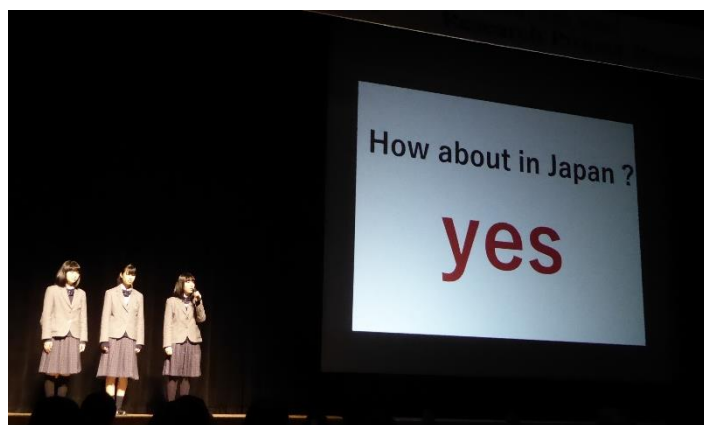
今回は 2 年生 SGH 活動年間を通しての振り返りについてお伝えします。

◇ H30 年度 SGH 活動を通して私の学んだこと

H30 年度の SGH 活動について、各クラス個人で『1 年間の歩み』を振り返る時間を持ちました。以下、生徒の学びに関するコメントです。

活動をする中で、何が一番大変でしたか？

- プレゼンの内容をまとめること。世界から日本に目を向ける構成を考えただけで、内容が多くて、どういう風に結論に持っていきべきか悩んだし、どこを削るべきか迷った。
- 自分達でイベントを開くための、計画と実行。日本人の口に合うように、レモネードの味を工夫するなど、仲間や先生方と協力して行った。
- LGBTQ の方の気持ちを理解するために、自分たちのなかにある先入観のようなものを排除すること。すべての人が納得するような紙芝居のシナリオを作ること。
- 『貧困』と一言と言っても、その定義は様々であり、どれを取り上げるべきなのか考えたこと。
- 自分達に何ができて、どう行動するべきかを考えること。



あなたは、その困難をどのようにして乗り越えましたか？

- 何人かの先生方と話をする中で、『子ども食堂』や『日本の貧困』がプレゼンの核という事が分かったので、もう 1 度内容を検討し直した。そして、情報量を整理し、一番伝えたいことは何かという事を熟考したことが役立った。
- 文系の生徒のみなさんにアンケートをとって、いろいろな考え方を吸収して、いくつかの解決方法を提案することができた。
- G o o g l e の活用とともに、今の状況の情報収集をし、フィールドワークで栄養士の方の話をお聞きしたこと。
- ブレインストーミングや、マッピングをしたこと。また、その内容を班員で交流することによって、解決の方向性が導き出せた。
- グループの仲間だけではなく、クラスの仲間の協力があつたことが大きかった。
- 何度もフィールドワークとして、いろいろな方とプロジェクトの打ち合わせのために話し合いの機会をもったこと。
- 上手くいかないことがあつても、途中であきらめなかったこと。
- 自分達が本当に主張したいことは何なのか、掘り下げたこと。



この1年間のSGH活動は、あなたにとってどのような意味がありましたか？

- 解決のために、実際に足を使って動くという、行動力を養うことができた。
- 日本の飢餓の現状を知り、自分にできることは何かを考えることができた。また、今後の人生について考えるきっかけとなった。
- みんなと考えを練り上げていくと、自分一人だけでは分からないことや気づかないことも見えてきて、仲間とやることの意義を感じた。
- 自分で何かを考えること・意見を伝えること・それを実行に移す力を育てる意味があった。
- 様々な面から物事をとらえられるようになってきた。先入観を排除することの大切さや、正しい知識を持つことの重要性を理解できた。また、相手の気持ちを考えることがいかに難しく、重要であるかということが分かった。
- 自分の知らない生き方や、それぞれの人の考え方を聞いて、今度の人生の目標や幅が広がった。

さて、あなたにとっての今後の課題は何ですか？

- 人との関わりの中で自分を成長させること。
- 自分を客観的に見ること。
- 考えたことを思い切って、行動に移すこと。
- 平等な社会の実現。
- 身近にある問題を解決するために、一步を踏み出すこと。
- 着目するテーマを深く知るための方法を増やすこと。
- 自分に自信をつけること。
- 自分の苦手なことに背を向けないようにして、とにかくやってみること。
- 好奇心を養うこと。

